

第 55 回宇宙理学委員会議事録

2016(平成 28)年 12 月 16 日 (金) 11:00~20:30

宇宙科学研究所 研究管理棟 2 階大会議場

(出席者) 草野委員長、海老沢幹事、藤本幹事、山田亨幹事、安東委員、井口委員、石岡委員、一本委員、今村委員、上野委員、金田委員、河合委員 (TV)、倉本委員、佐々木委員、塩谷委員、芝井委員 (TV)、住吉委員、高橋委員、田中委員、坪井委員、寺澤委員、中川委員、永田委員、中村昭子委員、中村栄三委員、橋本委員、早川委員、三好委員、山岸委員、吉田委員、渡部潤一委員、渡邊誠一郎委員

(宇宙研) 常田所長、深井執行役、稲谷副所長、満田研究総主幹、久保田プログラムディレクタ

(説明者) ERG 篠原プロマネ、Destiny+ 西山和孝准教授、宇宙環境利用専門委員会 石川正道委員長 (理研)、きぼう利用企画グループ小川志保グループ長、キュレーション専門委員会坂本教授 (北大・TV)、JASMINE WG 主査 郷田直輝教授 (国立天文台/・TV)、JASMINE WG 山田良透助教 (京都大学)、SLIM 坂井真一郎プロマネ

陪席：生田広報主幹、船木准教授

事務局：科学推進部青柳計画マネージャ、和木主任、古賀主事補、石崎、早川、北野

所長挨拶

X 線代替機の議論が進められている。ERG には VAP に劣らない成果を期待したい。SS520-4 号機が予定されている。観測ロケットの 3 段目を追加して超小型衛星を打ち上げる。

1. 宇宙科学に関連する最近の動き

佐々木科学推進部長から資料に基づいて報告された。MMX の宇宙研側の責任者は川勝先生。PI は北海道大学の倉本先生。2027 年くらいに戦略的中型二号機打ち上げ予定。LiteBIRD と Solar-power sail が提案されている。どちらもフロントローディングのフェーズに入っている。LiteBIRD を推進する教授を公募して審査中。

小型三号機は、現時点で所に推薦されたミッションはない。DESTINY と JASMINE は、再審査の後、推薦して頂く。SPICA については、M5 にプロポーザルが提出された。

2. 第 54 回議事録（案）について

議事録（案）にコメントがあれば 幹事まで知らせて欲しい。

3. 諸報告

3.1 ASTRO-H 終了審査（中間報告）および X 線天文衛星代替機と今後の宇宙科学ミッションについて

今回は報告がなし。

3.2 戦略的経費追加公募評価結果について

中川委員長から報告された。応募は次期太陽観測衛星 WG からの一件のみ。採択した。

3.3 小規模計画の公募について

久保田 PD から報告された。Letter of Intents は 15 件。それにもとづいて審査方法を検討する。1 月 13 日、応募締め切り予定。4 月末には、第一段階の選定を終えたい。

3.4 公募型小規模計画の状況について

DESTINY の状況について、西山准教授から報告された。ΔMDR の開催を希望している。

JASMINE について、郷田 WG 主査から、評価結果への対応状況について説明された。

3.5 大学共同利用連携拠点の公募について

満田研究総主幹から報告された。H29 年度から開始する大学共同利用連携拠点を募集する。

3.6 国際調整報告

山田国際調整主幹から報告された。

3.7 委員会報告

3.7.1 工学委員会報告

前回の理学委員会ですでに報告済みだったので省略。

3.8 専門委員会報告

3.8.1 大気球専門委員会報告

吉田委員から報告された

3.8.2 宇宙環境利用専門委員会報告

石川専門委員会委員長より報告された。小川きぼう利用センター長より、きぼう利用戦略について報告された。

3.8.3 キュレーション専門委員会報告

藤本委員の代理で、塚本地球外物質研究グループ長から報告された。

4. 議事

4.1 来期の理工学委員会の体制と運用

草野委員長から資料に基づいて説明された。理工合同で議論すべき課題が増えてきた。特に深宇宙探査においては理工の協力は不可欠。次期以降、できるだけ理工委員会が有機的につながるような運営をしていきたい。

討議の後、合意すべき事を文章化して、投票を行った。

投票結果：

- ① 理学委員会と工学委員会との合同開催を基軸としつつ、両委員会及び専門委員会に必要な審議を行う。賛成多数で可決。
- ② 宇宙理学委員会選出委員会を置き、理学委員候補を選出し、所長に推薦する。賛成多数で可決。
- ③ 選出委員会は所外委員についてはメンバによる投票結果を尊重し、理学委員候補の一部を決定する。賛成多数で可決。
- ④ 選出委員会は、理学委員長、所外2名、所内2名で構成し、理学委員会で選出する。賛成多数で可決。
- ⑤ 任期を連続する場合は原則として3期までとする。次期改選期からカウントを始める。原則として任期設けるかどうか：賛成多数で可決。さらなる投票の結果、任期は3期となった。
- ⑥ 委員数は本日の理学委員会の議論を宇宙研所長に伝え、宇宙研の研究所会議等にて議論して決定する。賛成多数で可決。
- ⑦ 政府委員会（宇宙政策委員会本委員会及び宇宙開発利用部会本部会）との重複は避ける。賛成多数で可決。
- ⑧ 宇宙研執行部は職務指定のオブザーバ参加とする。賛成多数で可決。
- ⑨ 「班員」は「メンバ」に名称変更する。賛成多数で可決。

上記の方針に従って関連する関係する規則を変更する。選出委員会の所外委員は、芝井委員、渡邊委員になった。所内委員は二月の理学委員会で決めることになった。

4.2 次期委員の選出について

第8期宇宙理学委員選挙を実施する。被選挙人名簿への記載を辞退したいという班員がいるが、審議の結果、辞退は認めないことになった。

4.3 ミッション提案へ至る過程への支援策

満田研究総主幹から投影資料に基づいて報告された。

4.4 宇宙科学ミッションの規模と頻度について

本日は討議無し。

4.5 平成28年度戦略的開発研究費の報告書類提出と平成29年度提案募集について

中川審査委員長から報告された。H29年度は、キー技術開発経費、システム検討費にわけて、提案募集を発出することになった。

4.6 平成28年度搭載機器基礎開発研究費の報告書類提出と平成29年度提案募集について

今村審査委員長から報告された。審議の結果、H29年度は、科研費等の外部資金獲得に先立って実証実験を必要とするものをサポートする資金と位置づけ、一件あたりの予算の上限を300万円として、提案募集を発出することになった。

4.7 宇宙科学の今後20年の構想を検討する委員会について

今村委員より報告された。理工学委員会合同で、中堅研究者を中心に、「宇宙科学の今後20年の構想を検討する委員会（20年委員会）」を設置した。委員は以下の通り（敬称略、順不同）。

理学：関根康人（東大）、清水敏文（ISAS）、矢野創（ISAS）、山崎典子（ISAS）、三好由純（名大）、金田英宏（名大）、米徳大輔（金沢大）、住貴宏（大阪大）

工学：津田雄一（ISAS）、福田盛介（ISAS）、野中聡（ISAS）、船木一幸（ISAS）、船瀬龍（東大）、木村真一（東京理科大）、笠原次郎（名古屋大）、姫野武洋（東大）

第一回会合を12月2日に開催した。月に一回程度集まり、2017年6月頃までに、理学と工学の競争的かつ協調的な発展による今後20年の、ロードマップを策定する。

4.8 大気球・観測ロケットの評価と将来への提言

海老沢幹事から報告された。前回の委員会の議論を基に、提言案を改定した。審議

の結果、議論を継続することになった。大気球の経験が豊富な委員の意見を取り込み、次回の委員会で、確定する予定。

4.9 3年を経過したWGの今後について

石岡WG審査委員長から、審査結果について報告された。WISHWG終了審査、Hi-Z GUNDAMWG、DPF WG、火星大気散逸探査検討WGについては延長審査を行った。WISHWGの終了を認める。Hi-Z GUNDAMWGの延長を認める。DPF WG、火星大気散逸探査検討WGは、延長を希望しているが、新たな計画は当初のW計画とは大きく異なるため、終了が妥当と判断した。改めて終了審査は必要ない。新しい計画については、新規WGまたはRG設立提案を行うことが望ましい。

審査委員会の結論が承認された。

4.10 WG設立審査

石岡WG審査委員長から、審査結果について報告された。「Dustの核形成」WG設立提案については、設立を認めたい。火星宇宙天気・宇宙気候検討WGについては、認めない。

「Dustの核形成」WG設立が認められた。火星宇宙天気・宇宙気候検討WGの設立は認められなかった。

4.11 ひので運用延長審査

芝井延長審査委員会委員長より報告された。審査委員会の審議の結果、2017年度から2020年度までの4年間の運用延長を認めたい。

2017年度から2020年度までの運用延長が認められた。

5. プロジェクト報告

5.1 ERG報告

篠原プロマネから報告された。

5.2 BepiColombo報告

早川プロマネから報告された。

5.3 SPICA 報告

芝井プロジェクトサイエンティストから報告された。

5.4 MMX 報告

川勝准教授からから報告された。

5.5 あかつき報告

中村プロマネから報告された。

5.6 SLIM 報告

坂井プロマネから報告された。

6. その他

6.1 高エネルギー実験分野の組織と将来計画等

住吉委員から、高エネルギー実験分野の組織と将来計画等についての紹介があった。

6.2 宇宙理学班員登録について

7名の入会、23名の退会が認められた（選挙を控えて班員名簿の整理を行っているので、多くの退会希望者があった）。